

授業科目 リハビリテーション概論

【担当教員名】 真柄 彰	対象学年	2	対象学科	社会（介護）
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

人が疾病や外傷などにより心身に障害をもっても、人間として幸せな気持で、生き甲斐をもち一般社会のなかで生活できるように考え援助していくのがリハビリテーション医学の役割である。一般医療の中ではともすれば障害者の存在が忘れられがちとなることがある。リハビリテーション医療は障害者のためだけにあるのではなく、いつ傷害を受けるかもしれない健常者のためにも大切である。障害者と健常者がわけへだてなく共存できることが目的であることを学習する。

- 【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】
1. リハビリテーションの理念と歴史を理解する。
 2. 医学的・職業的・社会的・心理的側面から包括的なリハビリテーションの考え方を理解する。
 3. 障害の構造を理解しリハビリテーション医学における各職種的位置づけを理解する。
 4. 他職種とのチームアプローチのおこない方を理解する。
 5. 代表的な疾患や外傷について生理学・運動学・高次脳機能学・障害者の心理などの障害に関する機序を理解する。
 6. 具体的な治療内容について説明できるようになる。
 7. 障害に対応するための家庭・社会的環境の評価法とその改善のアプローチを説明できるようになる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	歴史と定義・分野・障害分類・地域リハビリテーション症例	1, 2	講義
2	運動障害の評価・廃用症候群	2, 3	講義
3	廃用症候群	3, 4	講義
4	理学療法・作業療法	3, 4,	講義
5	言語療法・心理療法・義肢装具	3, 4	講義
6	高齢者のリハビリテーション	2, 3	講義
7	脳卒中（1）	5, 6	講義
8	脳卒中（2）	6, 7	講義
9	パーキンソン病	5, 6	講義
10	脊髄損傷（1）	5, 6	講義
11	脊髄損傷（2）	6, 7	講義
12	神経筋疾患	5, 7	講義
13	脳性麻痺	5, 7	講義
14	関節リウマチ	5, 7	講義
15	試験		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	リハビリテーション総論	格原彰夫 (編)	診断と治療社	3,600円+税
参考書	リハビリテーション医学テキスト 第2版	三上 真弘・石田 暉 (編)	南江堂	5,565円
	目で見るとリハビリテーション医学 (第2版)	上田敏	東京大学出版会	1994年 3990円
その他の資料	プリント配布			
	p d f ファイルを自分でダウンロードする			

【評価方法】	【履修上の留意点】
出席30% 定期試験70%	